

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800194
法人名	医療法人豊寿会
事業所名	医療法人豊寿会川井田医院 グループホーム皇子原
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓173番地3 (電話) 0984-42-2000
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月8日

【情報提供票より】(19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	4月	1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	19 人	常勤	19人, 非常勤	人, 常勤換算 19人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名	
要介護1	4 名	要介護2	9 名			
要介護3	8 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川井田医院 益山歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、同一法人が経営する医院・デイサービスと同じ敷地内に3ユニットあり、それぞれタイプの異なる造りで個々に合わせ入居者が心地よく住めるよう管理者、職員が理念のもとに対応がなされている。また、3ユニットの特性を活かし職員が3ユニット全入居者の状態を把握し協力して対応している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域への広報活動は継続して取組まれている。看板や表札も設置してあり取り組みがなされている。外出の頻度は少ないようさらに計画的に実施してほしい。地域との交流についても積極的に交流を深めてほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員の意見を聞いて作成されており、自己評価を行うことにより日頃気づかなかった点を明確にし利用者へ対するサービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。さらに計画立った取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政職、民生委員、家族会の代表、事業所職員など参加のもと2ヶ月に1回の運営会議を開催している。会議では事業所のサービス状況、利用者の登録状況、利用者の要介護度などを報告し参加者の意見を聞いたり話し合いがなされている。また町長宛にも状況報告を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に家族への便りを作成し配布し意見や要望等に対応できるように取組んでいる。また、運営推進会議でも家族会の代表に参加していただき意見を頂いたり、意見箱を設置し対応を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人が中心となり、年間行事計画立て地域の方たちを巻き込んだ様々な企画を提供しており、広く地域の人が来訪していただけるような取り組みを行っている。日常生活における散歩や地域活動への参加においてもさらに取り組んでほしい。

2. 評価結果（詳細）

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても心豊かに生きることを応援し個性に共感する介護を目指します」の理念のもとにホーム内にも掲示し利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてスタッフ間で日常的に話し合い個々に沿った対応が行われている。		理念をさらに掘り下げて具体化したケアの提供に取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの年間行事に地域を巻き込んだ活動が出来る様企画し、多くの人に参加してもらって地域との関係を図っている。	○	地域で行われている活動、行事等にも積極的に参加できるよう取組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行うことで日頃気づかなかった点を把握し職員で話し合い改善に向けた取り組みがなされている。		評価を活かし、計画を立てさらに充実した取り組みを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職、民生委員、家族、事業所職員の参加のもとに会議を開催し会議であがった意見等参考にケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当者の参加をお願いし意見をいただきサービスに活かしている。また、運営推進会議で話し合われた内容について町宛に報告書を提出している。	○	運営推進会議以外での関係は取組んでいないためグループホームのことを広く理解していただけるようさらに啓発に取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族宛の便りを作成し面会時においても常に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、意見箱、家族から直接受けた意見、相談、苦情等については職員全体で話し合いケアに活かしている。	○	家族から意見、相談、苦情等を引き出す工夫をすすめてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に退職があったが最近退職はなく3ユニットの全職員がどのユニットの入居者とも顔なじみの関係ができており入居者のダメージを防ぐよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修計画があり定期的に研修会に参加し質の向上に努めている。	○	全職員が段階に応じて研修を受けられるようにしてほしい。また、職員を育てる取り組みをしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム研修会に参加し同業者との意見交換を行いサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	泊まり体験も可能であり必要に応じ対応している。また、入居者や職員が同じ郷里であったり、同じ年齢などを考慮して徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴や喜び、不安などを知り、時には料理の味付けなどのアドバイスを頂いたり共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスを提供する中で「気づき」を多くし、家族にも情報をいただき意向の把握に努めている。また、センター方式を取り入れることで個々の把握が容易になった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議でスタッフより出されたアイデアや助言を参考にケアマネジャーを中心に介護計画を作成している。	○	介護計画作成のためのスタッフ会議に本人や家族、その他医療関係者等の参加を検討してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎のモニタリングを活かし計画を作成している。また、必要に応じて施設長やかかりつけ医に相談し助言をいただきその都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内に同法人の有床診療所、ショートステイ、デイサービスがあり交流をもち連携した対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地にある協力医療機関の診療所と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者のほとんどのかかりつけ医が同敷地内にある診療所であり本人、家族から意見を聞き医師との連携を図って方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを大切にした言葉かけや対応をしている。個人情報においても十分留意している。		継続して職員に対して秘密保持のためプライバシー保護の重要性を周知してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や就寝時間など入居者に応じた対応がなされている。また、職員に美容師の免許を持っている方がおられ希望があればその都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設診療所の栄養士と連携し献立を作り入居者と職員が一緒に準備後片づけをしている。	○	入居者の希望を聞いた献立作りと、職員も一緒に楽しく食事ができるよう取組んでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3ユニット連係して希望に合った時間帯に入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々にあわせ食事の準備をされる方、台ふき、茶碗洗いをされる方、掃除、草取りをされる方など役割を持ち過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って外出支援を行っている。	○	頻度としては日常的な外出は少ない状況であるため家族の協力も得ながらさらに外出支援に取組んでほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	就寝後の施錠は行っているが日中は自由に出入りが可能であり鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム敷地の道路向かいに消防署があり連携をはかり防災訓練も定期的に行われている。	○	さらに自治会や近隣の方の協力を得られるような働きかけをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設診療所の栄養士と連携しカロリー計算、栄養バランスを把握している。また、食事、水分摂取量についてはチェック表を作成し対応している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のスペースやテレビを楽しむスペースも確保されている。また、採光も十分あり明るくつろげる設備になっている。	○	一部トイレのスペースが広く洋式便器と男性用の小便器が殺風景に配置してあるためプライバシーの意味も含め工夫をしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に家具やテレビなどを持ち込まれて本人が心地よく過ごせるような工夫がなされている。	○	入居者によっては馴染みの物や持込がない方もいらっしゃるため積極的に働きかけをしてほしい。